

矢板の工場紹介

市内には技術力や業界シェアが高い工場が多く存在します。よく名前を聞く会社だけど仕事内容・技術力は知らない…なんてことはありませんか？皆さんが知っているようで知らない市内工場の魅力をお伝えします！

マイクロレンズユニットの

生産量世界一を目指す！

カンタツ株式会社

私たちの生活の中で身近に使われている、デジタルカメラ、携帯電話、スマートフォンなどの端末に搭載されるマイクロレンズユニットを設計、開発、製造している、カンタツ（株）の現在とこれからを事業戦略本部長 大泉雅裕本部長、人事部 中田真次次長にお聞きしました。

●会社の歴史

昭和四十三年シャープ（株）テレビ事業部栃木工場操業開始に伴う協力工場として、昭和五十四年六月に東タツミ電子（株）は設立されました。当時はビデオカメラユニット、カメラ用メカユニット



＜社是＞

の生産を基軸として、精密プレス、成形部品から精密機器までの設計、加工などを行っていました。その後、液晶プロジェクトの設計、生産を開始し、平成十年には光学ユニットの事業（レンズユニット）の設計、生産を開始しました。平成十二年にはマイクロレンズの設計、生産を開始し、現在に至るまで、社名は「カンタツ株式会社」に変更しました。また、世界の携帯端末に採用されたこと、最新の携帯電話・スマートフォン用のマイクロレンズも第三位の生産量を誇っています。

●現在の工場数と、従業員数は

国内では矢板市と福島県須賀川市に、国外では中国に二つの工場があります。この矢板工場では、六十五人が働いています。従業員は国内合計で四百

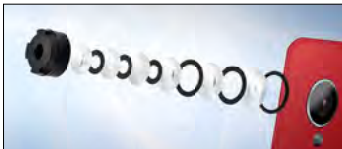
二十九人、国外合計で三千三百三十四人の従業員がいます。矢板工場では何を作っていますか

国内での生産は、平成十三年に須賀川工場へ全部を移しました。矢板工場は本社機能だけでしたが、平成二十八年五月からマイクロレンズの販売拡大につなげるサンプルの生産や、新規事業の立ち上げなど、多品種少量生産を行っています。

●マイクロレンズユニットとは

携帯電話やスマートフォン、タブレット端末などのカメラに搭載されているレンズです。当社では年間一億五千万個を生産しており、国内外から高い信頼と評価を得ています。

また、スマートフォンカメラの性能を高め、分野へシフト開始、高画素化、オートフォーカス、



カスのハイスピード化や高精度化、省電力化、光学ズームへの高性能化など多岐にわたっています。ことから、ますます高度な技術が要求されています。

●高度な要求に対応できる原点は

昭和五十四年の創業以来、精密プレスやプラスチック加工、精密機器の設計、加工、管理技術の導入に伴う超精密金型加工や正確で安定したレンズ成形、組立技術の磨き続けたからだと思えます。また、独自開発による自動組立機をはじめとした自動化機器等によって精度の高い生産ラインを構築していることで要求に迅速かつ柔軟に対応される体制があります。

●新規事業はありませんか

昨年からは新商品として、3Dプリンターを開発しました。従来の製品を



3Dプリンター

るかに上回る性能、スピード、低コストを備えた3Dプリンターの開発、製造に力を入れています。

●次へのステップは？

現在、生産量世界第三位なので、世界一を目指すためにカンタツの強みである超画素レンズユニットの技術に磨きをかけています。また、プラスチックレンズの高精密技術の進化に伴い、スマートフォン以外にも医療機器のカメラや車のカメラやレンズユニットを生産力を入れています。



（記者の感想）

何気なく使っている携帯のカメラがカンタツさんの製品かもしれないと思うと非常に嬉しく、親しみを感じました。（M・K）

●問い合わせ
カンタツ（株）
住所…片岡一五〇一三
電話…（四八）二四七一